

物質理工学院 学生交流プログラム2023冬派遣・応募要領

新型コロナウイルス感染拡大に際し、本プログラムで実施する学生派遣・受入については、新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応方針（8. 海外からの外国人教員・研究者等ならびに海外在住の外国人留学生の受け入れに関する方針及び10. 教職員・学生等の国外出張と私事渡航に関する方針）に基づき、国の方針に沿って実施いたします。

<https://www.titech.ac.jp/student/students/health/coronavirus>

プログラム合格後や留学中に以下の状況となった場合、留学を中止する、留学期間或いは留学先を変更することになる可能性があります。

(ア) 滞在（予定）地域が日本からの渡航者・日本人に対する入国制限措置及び入国・入域後の行動制限が発令された場合

https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/pdfhistory_world.html

(イ) 本学が危険と判断した場合

<https://www.titech.ac.jp/student/students/health/coronavirus>

(ウ) 滞在（予定）地域がレベル2以上に引き上げられた場合

(エ) 派遣先大学が入学拒否した場合（各協定大学コーディネーター・受入予定指導教員からの連絡にて確認）

物質理工学院では、学院単独で交流協定を締結している大学・研究機関へ、物質理工学院の優秀な学生を派遣する、学院独自の学生交流プログラムを実施しています。このプログラムでは、学生はホスト大学・機関の研究室に派遣され、研究活動を行います。

募集は年3回行われ、今回は **2023年12月～2024年2月** に渡航開始する学生を募集します。応募書類に基づいて英語面接を行い、派遣学生を決定いたします。

留学費用は原則自己負担ですが、別途、「工学院、物質理工学院及び環境・社会理工学院合同学生国際交流プログラム冬派遣」（以下、「エ・物・環学院合同学生交流プログラム」）に応募、採択された場合は、留学費用の一部支援を受けられます。また、不採択の場合でも、物質理工学院から一部支援が行われる場合があります。

募集概要

派遣対象 学生	<ul style="list-style-type: none"> ● 物質理工学院に所属する修士・博士課程正規学生 ● 一部の大学・機関には学士課程学生（4年生以上）の受入を認めているところもあるので、相談のこと。 注）社会人学生は対象外。
渡航開始及び留学期間	<p>2023年12月～2024年2月の渡航開始</p> <p>【博士課程、修士課程】2～3か月程度（時期・期間は受入研究室の定めるところとする）</p> <p>※60日未満は応募不可</p> <p>※正当な理由によっては上記以外での渡航開始、渡航期間も認められるため、申請用紙にその旨記載してください。</p> <p>【学士課程】個別相談 相談先：mct.intl.adm@jim.titech.ac.jp</p>
派遣先	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェノヴァ大学ポリテックスクール ・ イタリア学術会議 - 物質化学・エネルギー技術研究所 ・ ワルシャワ大学化学部 ・ ヨンショーピン大学工学部 ・ ドイツ航空宇宙センター ・ マックスプランク高分子研究所界面物理部門 ・ 武漢理工大学材料複合新技術国家重点実験室 ・ 大連理工大学材料科学工程学院、化工学院

	<p>・ 詳細はp3の表,各機関のHPをご参照ください。また,必ず応募前に各コーディネーター教員或いは物質理工学院国際担当 (mct.intl.adm@jim.titech.ac.jp) にご相談下さい。</p>
派遣人数	各大学・研究機関とも年間を通じて1名程度
留学費用	<p>原則自己負担</p> <p>※別途,「工・物・環学院合同学生国際交流プログラム」(C3-a カテゴリー)での派遣に応募,採択された場合は,留学費用の一部支援を受けられます。また,不採択の場合でも,物質理工学院から一部支援が行われる場合があります。</p> <p>※「工・物・環学院合同学生国際交流プログラム」の奨学金の受給希望者は,下記ウェブサイトにて募集の内容(応募締切:9月19日(火)正午)を確認の上,本応募と並行して準備を進めてください。</p> <p>https://www.titech.ac.jp/international-student-exchange/students/news/2023/066808</p>
応募締切	<p>2023年9月6日(水)正午まで</p> <p>応募書類提出先:物質理工学院国際担当 (mct.intl.adm@jim.titech.ac.jp)</p>
応募書類	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質理工学院学生交流プログラム申請用紙(様式1)(派遣期間,時期の希望を記入) 2. CV(様式自由,英語)(別紙サンプル) 3. Letter of Recommendation(様式自由,英語)
選考	<p>日時:2023年9月7日(木)～9月12日(火)のいずれの日にて調整予定。(書類審査の後,対象者に別途通知)</p> <p>形式:英語面接(約20分) *オンラインでの面接になる可能性もあります</p>
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「工・物・環学院合同学生国際交流プログラム」に採択された場合は,広域教養科目「国際研究研修」「グローバル理工人育成コース」,あるいは各系・コースに設定された同等の科目を履修登録が必須となります。なお,いずれの場合も派遣期間によって単位数が異なりますので,注意してください。 2. 採択された学生は,下記の東工大での海外渡航手続き案内を確認の上,出発の約3か月前より,必要な手続きを開始してください。 留学等海外渡航手続き 留学ガイド 在学生の方 東京工業大学 (titech.ac.jp) 3. 各自の責任の下,然るべき入国ビザを取得してください。ビザ申請に必要な書類のいくつかは留学先が発行してくれますが,自分でも調べてください。 4. 宿舎や航空券は各自で手配してください。(特に宿舎は,留学先の担当者の協力・紹介を得られないか相談してください。) 5. 渡航にあたっては東工大が指定する海外旅行保険及び危機管理サービスへ加入してください。詳細は,派遣決定後にお知らせします。 6. 帰国後1か月以内に報告書を提出してください(「工・物・環学院合同学生国際交流プログラム」への提出書類との併用可)。場合によっては,物質理工学院国際委員会で留学の報告をお願いします。また,報告書の全文,または一部はWebで広く公開致します。 <p>その他,質問等がありましたら,各コーディネーター教員, 物質理工学院国際担当 (mct.intl.adm@jim.titech.ac.jp) までお尋ねください。</p>

2023年冬に受入可能な物質理工学院学生交流プログラムの対象大学・研究機関(2023年7月現在)

	協定大学・機関	学院 ユテ`イネ`タ教員	備考
1	ジェノヴァ大学 (イタリア・ジェノヴァ) Polytechnic School, University of Genoa	小林郁夫 准教授 equo@mtl.titech.ac.jp	
2	イタリア学術会議 - 物質化学・エネルギー技術研究所 (イタリア・ジェノヴァ) Institute of Condensed Matter, Chemistry and Technologies for Energy Consiglio Nazionale delle Ricerche(CNR)	小林郁夫 准教授 equo@mtl.titech.ac.jp	
3	ワルシャワ大学 (ポーランド) Faculty of Chemistry, University of Warsaw	森川淳子 教授 morikawa.j.aa@m.titech.ac.jp	
4	ヨンショーピング大学 (スウェーデン) School of Engineering, Jönköping University	林幸 教授 hayashi@mtl.titech.ac.jp	
5	ドイツ航空宇宙センター (ドイツ・ケルン) Institute of Materials Physics in Space Deutsches Zentrum für Luft- und Raumfahrt (DLR)	小林郁夫 准教授 equo@mtl.titech.ac.jp	
6	マックスプランク高分子研究所界面物理部門 (ドイツ・マインツ) Max Planck Institute for Polymer Research (Department of Physics at Interfaces)	早水裕平 准教授 hayamizu.y.aa@m.titech.ac.jp	
7	武漢理工大学材料複合新技術国家重点実験室 (中国・武漢) Wuhan University of Technology (State Key Laboratory of Advanced Technology for Materials Synthesis and Processing)	史 蹟 教授 shi.j.aa@m.titech.ac.jp	
8	大連理工大学材料科学工程学院、化工学院 (中国・大連) The School of Materials Science and Engineering and the School of Chemical Engineering, Dalian University of Technology	史 蹟 教授 shi.j.aa@m.titech.ac.jp	

※1, 2 は共同での受け入れとなる可能性があります。

以上